

「総合的な探究の時間」で育んだ地域とのつながり

鹿児島県立垂水高等学校 教諭 田淵 由理

はじめに

垂水高校は、全校生徒67人の小規模な高校です。日々の授業では、少人数のよさを生かし、グループ学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実験等の活動を多く取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業に取り組んでいます。また、本校は、垂水市や地域の方々の支援のもと、垂水市唯一の高校としての使命を持ちながら、日々の教育活動を行っています。ここでは、普通科の「総合的な探究の時間」における3年間の取組について紹介します。

地域とつながった3年間

垂水市は、人口減少や少子高齢化に直面しています。そこで、「総合的な探究の時間」で、地域の課題を発見し、魅力や特長を生かしながら、自立的で持続的な活力ある地域とするための地域研究を推進することになりました。ここでは協働的な学習となるよう、また、探究の過程を発展的に繰り返していけるよう、活動はグループで3年間同じメンバーで取り組ませることになりました。

本市の豊かな食に注目した一つのグループに、「食で地域を活性化できないか」という課題を設定し、市役所や地域の方々の協力を得ながら、活動に取り組むことになりました。

校外での活動や文化祭での取組

生徒がまず必要だと感じたことは、垂水の食について理解することでした。そこで、地域の郷土料理を学ぶため、市役所の方に相談してみました。その結果、地域の情報誌に掲載されている郷土料理を紹介する企画の撮影に参加させていただけることになり、食生活改善推進員の方による説明を聞くことができました。さらに文化祭において、本市の魅力をアピールするため、来場された方に地域の食材を使用した特産品を紹介しながら販売するという販売計画を立てました。その結果、地域のさまざまな企業に生徒と一緒に訪問し、多くの企業から賛同を得ることができ、生徒は生産者や企業の思いものせて文化祭で特産品の販売を行

うことができました。

政策アイデアコンテストへの応募

2年次では1年次の活動をもとに、地域の実情や課題を把握したうえで、データに基づく分析や考察を行い、解決策を提案しようと「地域経済分析システム」を活用することにしました。このシステムでデータを分析すると、本市は農業経営体あたりの農業産出額がかなり高いことが分かり、農業に強みがあることが考察できました。そこで、この強みを活かした地域産業の振興に向けた政策アイデアを考案し、内閣府主催の「地方創生☆政策アイデアコンテスト」に応募したところ、九州経済産業局長賞を受賞することができました。

3年間の学び

受賞後、市長を表敬訪問したり、地域の経済同友クラブで発表を行う機会をいただいたりするなど、生徒の活動の場が広がっていきました。3年次では、提案した政策アイデアの具現化に向け、市役所の方と一緒に新規就農者の取材に出かけたり、特産品の生産現場を見学したりしました。生徒が3年間取り組んだ「総合的な探究の時間」は、市役所や地域、企業等の多くの方々に活動を支えていただくことで成し遂げることができました。この活動を通して、生徒は課題を解決していくうえで誰かの助けや協力が必ず必要なること、自分の意見・考えをしっかりと持ちそれを発信していくことが大切であること、多くの課題に積極的に向き合うことが人生を切り拓くことにつながることを学びました。



【つらさげ芋の見学】

おわりに

新学習指導要領では「総合的な探究の時間」の探究的な活動がより重視されています。本校もその目標達成に向け、探究のプロセスのスキルを習得させながら、主体的・協働的に探究に取り組む姿勢を育成していきたいと考えています。